

## 第2回ふれあい自然観察会

### 夏休み子どもトンボ教室

山田益弘（千葉市）

日時：2010年7月31日（土）9：30～12：30 天候：曇りのち晴れ

参加者：大人11名、子ども11名 計22名、千葉市環境保全推進課 2名

指導員：赤木光明、木下順次、後藤菊子、小林義和、佐藤一枝、佐野由輝、武田宏子  
田邊裕美、花島伸美、前田佳胤、山下美佐子、山田益弘

猛暑の中、第2回ふれあい観察会「夏休み子どもトンボ教室」が実施されました。太陽の広場で自然観察体操後、トンボの捕え方や翅のやさしく持つ方法等を説明し、3班編成で3コースに分かれてスタートです。

木陰や明るい池、菖蒲田など場所によって棲み分けしているトンボを捕えることに夢中です。自分で捕えたノシメトンボ、ナツアカネの違いを図鑑等で確認し、トンボの眼、口、翅や胸の模様、足の特徴を、又♂と♀の見分け方もわかりやすく説明し判ってもらいました。

子ども達の注目はやはり日本一のトンボ「オニヤンマ」です。上空をパトロール飛行中の成虫の姿を見つけた時、期せずして「オーッ」との歓声があがり時間を忘れて見つめている顔、オニヤンマを捕えた男の子の「ヤッター」のうれしそうな顔が印象的でした。かわるがわるオニヤンマを上手に持って、その大きさ、力強さを実感し、又、ヤゴや羽化殻も観察できました。下夕田池ではイトトンボの可愛らしさ、チョウトンボの優雅な舞、又、ショウジョウトンボの真っ赤な顔など、それぞれのトンボの特徴に驚いた様子でした。羽化後の翅を乾かしているアブラゼミも観察しました。



オニヤンマの写真 武田宏子さん

指導員の感じた今年のトンボは「ノシメトンボが少ない」「コノシメトンボがほとんどいない」「ウスバキトンボ」「オニヤンマが多い」等々でした。猛暑が多少影響しているかもしれないが気がかりです。

最後に、七尾純著の紙芝居「アカトンボ」を見た後、ふりかえりとまとめを行い、観察会を終了しました。心配した熱中症や事故も無く子ども達の楽しかったとの声を聞き指導員一同ほっとしました。打ち合わせ、下見等市役所の方々をはじめ大勢の指導員のご協力で素晴らしい観察会になり、心より感謝いたします。なお、主催者より観察会スタート前に「今年は生物多様性年」について“さまざまな生き物がその恵みをもらい関係しながら生活しており、今日のトンボ観察会を通じて、それぞれの生命のつながりを、又自然の素晴らしさ、大切さを体験して下さい。との話がありました。